

網走・北見の市民有志

知恵出し合い課題解決

「都市間連携」きょう初会議

まちの境界を乗り越え、網走と北見の市民有志がまちづくりを考へる「都市間連携」に乗り出す。地域のさまざまな課題解決に向け、行政に頼らず市民自らアイデアを出してという取り組み。26日に北見で初めての連携市民会議を開く。

住民協働組織づくりをサポートしている北見の市民団体・CTC北見まちづくり会(旧CTCきたみ中央まち

づくり会、中川篤嘉会長)が呼びかけた。まちづくり活動で知り合った北見、網走の両市議や農業者、市民団体代表ら計10人で始動。26日の会議には北見、網走の各4人が参加する予定だ。

テーマは決めずに、医療問題や観光、文化など「都市間連携」の具体的な概念をまとめ、次の段階に進む計画だ。

昨年4月、管内首長

がオホーツク圏を語った北海道行政書士会網走支部主催のシンポジウムがきっかけとなった。これを踏まえて北見まちづくり会が「市民同志が話し合う場をつくれぬか」と企画。同会の逢坂信治事務局

長は「北見で開いた地域コミュニティ再生会議で住民協働組織の重要性を市に提言した経緯もある。オホーツクを舞台にした今後の地域活動に一定の道筋をつけられれば」と話している。

北見市市民協働推進課は「個別のテーマではなく、まちづくりに関する幅広いテーマでそれぞれの市民が連携する取り組みは珍しい」としている。問い合わせは北見まちづくり会 ☎0157・312854へ。

(相川康暁)

